

総務文教委員会記録

令和5年2月7日（火）
16時16分～17時35分
第1委員会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員
【議長・委員外議員】 笹田議長
【事務局】 松井書記

【議題】

- 行政視察を終えて
 - 委員派遣報告書の作成について
 - 行政視察レポートの作成について
- その他

【議事の経過】

[16 時 16 分 開議]

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1 行政視察を終えて

(1) 委員派遣報告書の作成について

永見委員長

2月15日までに議長に提出するので、視察先ごとに一人ずつ所感を発表してもらい、委員会の考察として協議してまとめたい。

こゆ財団についての所感を願います。

(各委員が所感を発表)

永見委員長

それぞれ思いを述べてもらったが、ソーシャルビジネスに共感したので、地域貢献という意味合いもあるので、そのあたりについて考察に盛り込んでいけたらと思う。

三浦副委員長

皆の話を聞く中で、ふるさと寄附を財源にして商品開発したりという仕組みが参考になったという話があった。役場や地域おこし協力隊などのいろいろなセクターが一緒になって活動する地域活動が、浜田の場合にも中間支援組織が立ち上がるが、そういったところとの連携が効果を生むのではないかという話も出ていた。新富町ではそういった地域商社のような役割を民間がうまく担うことで、ふるさと納税も上がっているし、財源の獲得に民間の力が有効ではないかという感想は皆共通していたのではないか。

芦谷委員

皆が自分の思うところに力点を置いて言われたので、大谷委員には全体的なことが概略的にまとめられるようお願いしたい。

大谷委員

今言われた所感をまとめたいと思うが、財源の問題の指摘と、それを使って中間組織である財団の設立を模索して、その財源と人材をもとにしたいろいろな活動の例を挙げながら、手本にしたらどうかという意味合いのまとめでどうか。

永見委員長

よいと思う。

続いて、つぎの未来財団についての所感を願います。

(各委員が所感を発表)

永見委員長

皆が特に中間支援組織や、町長の意気込みに対して感銘を受けたようだが、宮崎大学との協働の取組なども含めて浜田市のこれからは役立つ取組だと思うのと、財団のデジタルフレンドリー事業も重要な取組だと思うので、今後取り組んでもらえればと思うがどうか。

三浦副委員長

大谷委員が書かれているが、デジタル推進は防災や福祉についても活用が期待されていて、それを活用することでよりよくなるという、皆が何かをするときにデジタルを使うための基盤整備を今までやってきたから次に行けるという段階的な構想を立てて、デジタル化に、若い人向けだけではなくて高齢者に対しても丁寧に、地域のサロン活動のようなどころでやっているのはすばらしいと思って、そういう地道な部分が大事だと思うのと、将来段階的にどうしていくかという大きなスケジュールがしっかり描かれている。それを動かしていくときに行政ではなくて財

- 大谷委員 団みたいなの瞬発力がある組織があるという関係性がすごく整っている。
規模が違うのでそこは考えなければいけないと思いつつも、方向としてはデジタル推進をしていく必要がある、その中にいろいろな要素を絡めていく、浜田なりの事業を今後展開すべきだということを述べるべきではないかと思った。財団という中間的な組織のネットワークがよいので、そういった設立を検討しながら活用すべきという方向かなと思った。
- 永見委員長 次に、延岡市駅前複合施設エンクロスについての所感を願います。
(各委員が所感を発表)
- 永見委員長 この施設を整備するに当たって、市民の意見をじっくり聞いて時間をかけて、皆のニーズに合うような施設をとということでつくられているので、そのあたりについて興味を持った。浜田市のまちなか交流プラザにも、そういう面を含めながら、市民や利用者のニーズに合うような施設という点で参考になると思ったので考察の中に入れてもらえればと思う。
- 大谷委員 市民の声を聞いて一つのプロジェクトをつくり上げていく手法が参考になったということと、市民がくつろげるような空間づくりも必要だということは浜田市として参考になるが、維持管理その他については規模が違うので、今後の推移を見守るということでしょうか。
- 永見委員長 エンクロスとまちなか交流プラザは規模が全然違うが、市民の活動拠点という意味合いでいえば共通するところもあると思う。浜田市としてはそのあたりを参考にしながら進めるべきではないかと思った。
- 大谷委員 都農町の駅にもカフェがあった。こういうふうにし少し間が持てるような、会話ができるような交流の場は必要だろうと感じた。そのあたりに触れたらどうか。
- 佐々木委員 交流プラザだけを捉えるのではなくて、岩多屋や銀天街などの中心街の駅前整備全体を考えたときに、今後の施設のあり方をどうするかということも含めてまとめてもらえればと思う。
- 永見委員長 最後に、延岡城・内藤記念博物館についての所感を願います。
(各委員が所感を発表)
- 永見委員長 浜田市が計画している施設とは規模が違うが、歴史をしっかりと生かした展示や保存、整備の仕方に共感したし、市民の活動を考慮して建てられた建物に感銘を受けた。特に印象に残ったのが玄関ホールに大きな地図があって、子供たちが自分の家がわかるように展示してあり、工夫がされていると思った。知恵を絞った展示があったので、浜田市の資料館も参考にできることが多いにあると思った。
- 大谷委員 同じことはできないが、あの博物館だけではなく、市民の多様な利用を想定していることが参考になる。教育的な視点でも十分な展示スペースをとってやっている点も魅力だと思った。
もう一つ、四つのところを見て共通に感じたことだが、投資をしないと環境を変えられない。どこにどういう意思を持って投資するかというコンセプトは重要だが、共通項として、かけるところにはかけないと変化は生まれえないという点はあると思った。
今聞いたことをもとにして集約した形で文章化して、正副委員長に修正してもらいながら皆に提案できるようにつくっていききたい。

三浦副委員長

所感をまとめてもらい、大体の方向性として、こういうところが浜田市にとって参考になるとか、こういう視点が必要だということではそれぞれの所感をまとめるところで出てきたと思うので、それは考察という部分にもなると思うので、大谷委員にまとめてもらって、正副委員長に出してもらいたい。

大谷委員

所感をまとめたものを見てもらって、確認した後に考察に発展していく流れだと思うが、違わないだろうか。委員会としてどういうふうな受け止めたかがまとまらないと次に進まないと思うがどうか。

西田委員

今出た所感の中で、共通項を考察的にまとめて、その中に各委員の思いがその中に多少でも入っていればよいのではないかと。全員協議会で報告したときに、そういう思いが皆に一定程度伝わればよいと思う。

永見委員長

ここで暫時休憩する。

[17時 18分 休憩]

[17時 27分 再開]

(2) 行政視察レポートの作成について

永見委員長

委員会を再開する。

(2)の行政視察レポートの作成について、レポート案は正副委員長が作成し、所感のまとめは大谷議員にお願いします。今後の予定だが、レポート案を作成して、3月6日の総務文教委員会で確認し、3月17日の定例会議最終日の全員協議会で報告するように進めたいが、よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように決定するのでよろしくお願いします。

2 その他

永見委員長

一つ話をしたい。取組課題「多様性社会の推進について」は、11月4日に市長へ提言書を提出した。皆の協力で提言に至ったが、これからの総務文教委員会の取組課題をまた皆で相談して、取り組んでいきたいと思っている。今日の段階ではできないと思うが、次回なりその次の委員会で相談して決められればと思っている。前回、多様性社会の推進を決める段階で皆からいろいろと取組課題を提出してもらったので、それを参考にしながら相談したいと思うので、その節はよろしくお願いします。

佐々木委員

今の委員長の話でいくと、何かテーマを持って研究して条例や提言などにつなげていくようなイメージだと思うが、少し違った視点というか、提言とも共通することになると思うが、今浜田市が行っている事業で特に重要な事業について、こういう方向性だとかこういう内容だとかということや、あるいは事業そのものについてこれはどうかというようなことを委員会として、もう少し費用対効果を上げるものとか、市民に伝えられる内容にするとか、各委員が持っている事業に対する意見を踏まえて、広く課題を検討したほうが入りやすいのではないかと。検討そのものを考えるのも大変なので、それも踏まえて、広く委員会として取り組むべきことを考えていく。ほかの委員会がやっていないので難しいとは思いますが、先行事例として、取組課題は一つやって余裕があるので、そうい

三浦副委員長

うのもどうかと思った。

取組課題も、佐々木委員が言われたことも、所管事務調査だと思う。取組課題はこういうものと大きく捉えて政策提言に持っていったものもあるし、既存の事業の中でこれに注目して、取組や事業をしっかり検証しよう、それについて議論しようというのは、それもよいことだと思う。委員長も言われたように、前回出した取組テーマの一覧表もベースにしなながらも、検証すべき事業があれば所管事務調査をして取り組めばよいと思うし、委員会が改選までの2年間で取組課題を一つしかやらなくてよいというわけでもないので、所管事務調査を平行して二つやってもよいわけなので、そういう提案があれば事業の検証などもすごくよいと思う。

佐々木委員

イメージは所管事務調査である。よく定例会議の初日の委員会で所管事務調査事項があれば上げているが、あれは個人の思いでやっているだけで、本来違う。市民の福祉のために委員会として突き詰めて、いろいろ調査して変えていく、提言していく、それが本来議会に与えられている所管事務調査の権限である。そういうものを果たしていくという意味合いで言った。

永見委員長

いろいろ意見をいただいたので、次回なりその次の委員会なりで皆と協議したい。よろしくお願いします。

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

以上で総務文教委員会を終了する。

[17 時 35 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 永見 利久